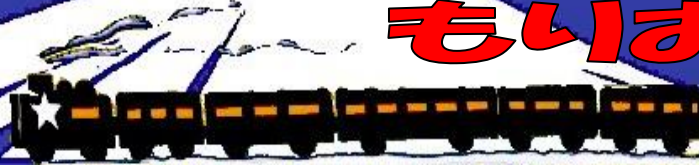




# The Y's MEN's CLUB of



# もりおか



## <VOL134.2019.2>

もりおかクラブ事務所：〒020-0804 盛岡市本町通3丁目1-1 Tel 019-623-1575 盛岡YMCA内  
盛岡YMCA HP <http://www.ymcajapan.org/morioka/> 検索エンジンワード「盛岡YMCA」

### 「主題」

国際会長	Moon Sang Bong (韓国)
アジア地域会長	田中 博之 (日本)
東日本区理事	宮内 友弥 (武蔵野多摩)
北東部長	涌澤 博 (仙台青葉城)
もりおかクラブ会長	三田 庸平

「私達は変えられる」  
「アクション」  
「為せば、成る」  
「チャンス到来、我ら北東部から世界へ」  
「繋がりを大事に、見据える世界の扉」  
副題「ワイズの明るい未来を見つけましょう！」

今月の聖句 エフェソの信徒への手紙4章26節

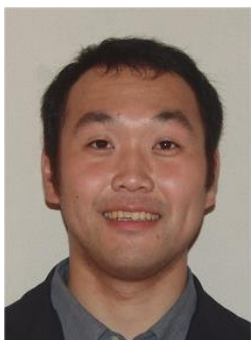
## 「偽りを捨て、それぞれ隣人に対して真実を語りなさい。」

会長	三田 庸平
副会長	長岡 正彦
書記	濱塚 有史
会計	大関 靖二
担当主事	浅沼 慧 (しどう)
	中村 渉 (チャン)

### 3月定例会のご案内

日時 平成31年3月9日 (第2土曜日) 18時30分  
場所 盛岡北ホテル2F。 会費 2,000円  
第二例会、3月23日 (第土曜日) 19時より 3,500円  
盛岡YMCA卒業式、岩国みなみクラブ来盛交流、北東部長訪問  
場所 居酒屋べっか 中央通2-1-8 岩手開運ビル、B1

### 三田会長巻頭挨拶



三田会長

2月になり、雪がパラパラとしか降らない盛岡。晴れの日が多く温かい日差しが差し込んでいるのがうれしい反面、盛岡らしい冬ではなかったのが寂しい気もします。そしてハクチョウも飛び立っていくのも間もなく寂しいです。また、温かくなってきた分、インフルエンザの患者さんが減ってきて

いるのがうれしい知らせです。

さて、2月になりアジア太平洋地域大会の申し込みも始まりもりおかクラブからも多くの方々に参加して盛り上げていけたらと思ひ、例会でもう一度呼びかけを行いました。仙台で行われるアジア大会が楽しみです。もりおかクラブの例会では色々と卓話して頂ける方に入会して頂ける様にもっともっと卓話者を増やしてもりおかクラブを盛り上げて行きたいと思うのですが、中々うまくいかなのが現状です。もっともっとアイデアを見つけてアプローチできたらと思います。

### 2月新年定例会の報告

平成31年2月9日(土) 盛岡、北ホテルにて開催、参加者、三田、山口、井上、井上優子、大関、中原陽子、長岡、村上、魚住、中村(敬称略)。ゲスト、小川嘉文さん(サル)、渡邊拓人(しなちく)以上12名の参加で開催されました。

今年度2回目の第一例会の開催となりました。ワイズや盛岡YMCAの活動が活発になりつつあります。すでに2、3日で北東部主催のユーズリーダーズアクト、宇都宮ワイズ主催のエンジョイドッチボールの開催に参加してきています。この記事は後段にて特集してあります。さらに21日から23日まで4日連続の行事が予定しています。これも特集しようと思っています。卓話が有りませんでしたので、各自の近況報告をおもしろ、楽しく報告して今晚の例会は終了しました。



2月第一定例会集合写真

## 北東部ユースリーダーズアクト2019に参加して

大関靖二

2月2、3日の日程で参加してきました。井上メン、長岡メン、濱塚メン、大関メン。リーダーから男性4名、女性5名、合計13名です。2日、午前6時30分盛岡を出発、午後1時とちぎYMCAに到着しました。

さくらんぼ幼稚園の体育館にて、「一般社団法人えがお」の濱野代表理事より基調講演「人とのつながりを感じられる社会を目指して」をお題にいただきました。（なんとこの濱野さん、現在27歳で2年前に起業したとの事。驚きました。）困っている人と役所との間に入って活動している事、話し相手がいない、買い物ができない、自由に街歩きがしたい等々の人たちとの交流、又、小中高生が勉強できる場を提供するなど、地域のプレーヤーを増やし趣味の特技などを発揮してもらうなど工夫をしているとの事。頭ではわかっている私たちなどはなかなか行動に移せない事ばかりで大変参考になる講演でした。



参加した盛岡YMCAのリーダー達。「風になりたい」の替え歌を披露しました。



その後、各地域から集まったリーダー達はグループごとのディスカッションや、大会運営の説明を受けるという事などで、我々は宇都宮クラブの方に大谷石資料館に案内してもらいました。大谷石を切りだした後の巨大地下空間には、ただただ驚きでした。よくこんなに切り出したものだと恐怖すら感じました。夕食は懇親会を開いてもらい楽しいひと時をすごしました。

## 北東部ユースアクトとエンジョイ

### ドッジボールに参加しました。

斎藤七穂(おむすび) 岩手大学1年



こんにちは。おむすびです！まずは、今回、栃木YMCAさんで温かく迎えてくれたこと、そして、二日間を充実した素敵な時間にさせていただいたことに感謝します。ありがとうございました。言葉では言い表せないくらいの充実した二日間だったのですが、少し感想を述べさせていただきます。まず

は、濱野将行さんのご講演を聴いて、私は、非常に感銘を受けました。濱野さんの活動は、高齢化社会の中で出てくる問題に対する、大きな一つの解決策のように思いました。私の実家がある地域でも、多くの高齢者が一人暮らしをしています。私の母校である小学校も閉校し、地域の中が、寂しくなりました。そんな状況の中で、困ったことがあっても頼れる人がいる環境や、誰かと会話したいときに会話できる環境は、今、本当に社会に求

められていることだと感じました。「みんなの家」のように、世代を超えて多くの人が集まれる場所があったら、私の町ももっと明るくなるのではないかと考えながらお話を聞かせていただきました。人とのつながりを感じられる社会を目指し、今までしてこなかった新たな試みに挑戦し続けようとする濱野さんの姿は、失敗が怖くて挑戦することを避けてしまっていた自分への大きな後押しになりました。貴重なお話が聴けたこと、本当に感謝しています。また、今回は、栃木YMCAさんと、千葉YMCAさんとたくさんの交流ができたこと、非常にうれしく思います。今回、栃木YMCAさんに行くにあたって、私は、盛岡以外のYMCAはどんな活動をしているのだろうと、興味を持っていました。実際にお話をしてみて、盛岡ではしていない別の活動があったり、その中でも私たちと同じ悩みを持っていたり、たくさんのことに気づかされました。みんなと意見を共有する中で、私が強く感じたことは、どのリーダーも、YMCAの活動に、熱意をもって、真剣に向き合っているということです。同じ熱量で、本音で語り合えた時間は、



試合開始まえの整列、ピンクのユニフォームは女子チーム

3日はいよいよエンジョイドッジボール大会です。参加は28チームあり小学生高学年、低学年、予想以上の大人数でした。特に低学年の子供たちは小さいながらも素晴らしい活躍をしていました。正式なドッジボールの試合を始めて見ましたが、フォーメーションも多々あり迫力もありでした。ただボールを投げて当てるという単純なスポーツではない事を再認識しました。勝って喜び、負けて泣くという真剣そのものの大会でした。

盛岡YMCAのリーダー達も記録係、場内段取等々、大活躍でした。体育館の中はじっとしていると底冷えしてくる中、本当にご苦労様でした。夕方現地を出発、盛岡到着は翌1時でした。帰りのバスの中で各リーダーたちが2日間の感想を述べてくれました。他地域のリーダー達との交流、経験した事のない大会運営の補助等々、有意義な時間だったと話してくれました。本当に良かったですね。最後に、マイクロバスを運転して下さった濱塚メン、長岡メンに感謝です。ありがとうございました。



閉会式後に全員でピンク色に染める集合写真「いじめ撲滅」

められていることだと感じました。「みんなの家」のように、世代を超えて多くの人が集まれる場所があったら、私の町ももっと明るくなるのではないかと考えながらお話を聞かせていただきました。人とのつながりを感じられる社会を目指し、今までしてこなかった新たな試みに挑戦し続けようとする濱野さんの姿は、失敗が怖くて挑戦することを避けてしまっていた自分への大きな後押しになりました。貴重なお話が聴けたこと、本当に感謝しています。また、今回は、栃木YMCAさんと、千葉YMCAさんとたくさんの交流ができたこと、非常にうれしく思います。今回、栃木YMCAさんに行くにあたって、私は、盛岡以外のYMCAはどんな活動をしているのだろうと、興味を持っていました。実際にお話をしてみて、盛岡ではしていない別の活動があったり、その中でも私たちと同じ悩みを持っていたり、たくさんのことに気づかされました。みんなと意見を共有する中で、私が強く感じたことは、どのリーダーも、YMCAの活動に、熱意をもって、真剣に向き合っているということです。同じ熱量で、本音で語り合えた時間は、

本当に有意義な、充実した時間でした。また、それぞれの地元ト  
ークに花が咲いたことも良い思い出です(笑)。そして、夜にみんな  
でドッジボールをしたことは、非常に大切な思い出になりました。  
私の、リーダーの一番好きなところは、楽しむときには本気で  
楽しむところです。終始笑いが絶えなかったあの時間は、一番  
リーダーらしい時間だったように思えます。また、みんなが同じ  
空間で同じことで笑いあえた、最高の時間になりました。ドッジボ  
ール大会本番は、私は一日中、子どもたちのパワーに圧倒され  
ました。子どもたちの一生懸命な姿に、何度も感動し、涙が出そ  
うになりました。仲間と一緒に喜んで笑いあったり、悔しくて泣き  
あったりしている姿から、一生懸命に本気で向き合うからこそ得  
られる感情があるのだと教えてもらいました。私はそれを、  
YMCAを通じて自分が伝えられる存在になりたいし、何かに挑戦  
する子どもたちを全力で応援していきたいと思いました。

今回は、総主事の塩澤達俊さん、また、マリオスタッフを始めと  
する栃木 YMCA のスタッフの皆さん、リーダーの皆さんには大変  
お世話になりました。食事の用意や車で送迎など、多くの配慮  
に心から感謝いたします。またお会いできることを心から楽しみ  
しております。二日間、本当にありがとうございました。

### 吉田莉那(アグー)



普段活動している場所や活動内容は違  
っても、抱えている悩みや課題は同じであ  
るということ、8月に参加したユースリー  
ダーズフォーラムに加えて改めて再認識  
することができました。ゆう、あーりん、え  
びちゃん、ジャガー、アグーというメンバー  
で話した時には、とちぎ YMCA と盛岡 YMCA それぞれのリーダ  
ー会やミーティングの仕方や現状の問題点などについても話す  
ことができました。それに対してお互いに意見や改善策を言い  
合うことで、新しい発見があったり自分自身の考えを見つめなお  
したりもできて、とても有意義な時間を過ごすことができたと感じ  
ています。

2日目に行われたチャレンジドッジボール大会では、子どもた  
ちとの関わり方のヒントを得られたような気がしています。直接  
子どもたちと関われることはほとんどなかったのですが、試合中

にどんな声掛けをすれば子どもたちに伝えたいことが伝わるの  
か、試合の前後の時間の子どもたちへの接し方はどうしている  
のかなど、コーチによって様々なやり方があったので、傍から様  
子を伺いながら色々勉強させてもらいました。ピンチな状況にな  
っても巻き返せるチームは、どこも雰囲気の良いチームだったので、  
そういう雰囲気づくりやグループワークという点でもとても勉強に  
なりました。いつもは子どもたちの中に入って活動しているので  
目の前のことでいっぱいになりがちですが、今回一歩

引いた立場で客観的に見ることができたおかげで、子どもた  
ちとの関わり方について冷静に考えることができたと思います。  
また、子どもたちが一生懸命頑張っている姿をたくさん見て、と  
ても心が動かされました。目に見える形で活躍しチームの勝利  
に貢献している子、良い声掛けや雰囲気づくりをしてチームを引  
っ張っていく子、コートの外で一生懸命応援して全力で喜んだり  
悔しがったりしている子。ドッジボール大会に参加していた一人  
ひとりにそれぞれの良さがある、みんなキラキラしているなど  
思い、そのような大会のお手伝いをさせてもらっていることがあ  
りがたいことだと感じました。そして、そんな子どもたちの姿を  
見て、盛岡の子どもたちに会いたいという気持ちが強くなりました。  
この大会に参加している子どもたちに盛岡の子どもたちを  
重ね合わせて、喜んだり悲しくなったりして、自分もチームの一  
人のような気持ちで毎回の試合を見ていました。私は、リーダー  
2年目になり、いろいろと考えたり感じたりすることが多くなって、  
活動に行くのを億劫に感じてしまうことが多くなってしまってい  
ました。でも、なぜ活動を続けてこれたのかを考えると、やはり子  
どもたちの輝く瞬間と一緒に過ごしたり子どもたちと全力で向き  
合ったりすることが好きだからだということに気づきました。そう  
気づきかけの一つをこのドッジボール大会で与えてもらいま  
した。

今回の2日間で、他の YMCA を知ることはもちろんのこと、自  
分を見つめなおし、リーダーを見つめなおし、盛岡 YMCA を見つ  
めなおすことができたと感じています。このような機会を与えて  
いただいたことを本当にありがたく感じますし、今回出会うことの  
できたすべての方にとっても感謝しています。また機会があれば、  
今度は子供たちも交えたキャンプをしたいです。2日間とい  
う短い時間でしたが、本当にありがとうございました。

# 「フイテン盛岡DAON」

## もりおかクラブの状況報告

2月の出席率	9/14	64 %	ゲスト2名	ビジター0名	メネット2名			
メーキャップ	1	名		2月切手	10 g	累計	333 g	
2月のにこにこ	19,000	円	累計	円	2月プルタブ	115 g	累計	22,350 g
2月 石鹸	0	円	累計	3,610 円	りんご	0 円	累計	17,010 円
2月 献金	4,269	円		ファンド合計	17,010 円			

会費の納入をお願いいたします。岩手銀行 松園支店(店番号 082)普通口座 2145674

もりおかワイズメンズクラブ 会計 大関 靖二

2月のハッピーバースディ 全国のワイズメン、ウィメンの方々お誕生日おめでとうございます。

## 東日本大震災アーカイブス 2012年9月掲載 釜石の奇跡は「津波てんでんこ」の教えでした。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災で、津波の直撃を受けながら、小中学生全員が命を守ったのが、岩手県釜石市です。釜石では、過去の津波被害への対策のために、昭和53年から釜石港の入り口に防波堤を築いていました。そして各家庭には津波対策のハザードマップまで配られ、被害の阻止に努めていたのです。けれど災害は、思わぬ規模でやってくる。防波堤は高さ6メートルの津波にまで対応しているというけれど、現に明治三陸地震では8メートルの津波が来ているではないか。ハザードマップの想定にとられるな、と教えます。そして地震が来たら、津波から逃れるために最善を尽くせ、率先して避難せよ、と教えます。そして、東日本大震災が起こったのです。地震が来たとき、海岸からわずか1キロのところにある鶴住居小学校



では、地震直後に校舎の3階に児童が集まりました。校舎の建物は無事、しかもこの小学校は津波による浸水想定区域外です。ところが生徒たちが集まった屋上から見ると、隣の釜石東中では生徒たちが校庭に駆け出していました。これを見た児童たちは、日頃の同中との合同訓練を思い出し、自らの判断で校庭に駆け出します。それぞれの判断です。鶴住居小の児童ら約600名は、500メートル後方の高台にあるグループホームまで避難します。ここも指定避難場所です。けれど一息つく間もなく、裏側の崖が崩れはじめる。危険を感じた小中学校の生徒たちは、さらに約500メートル先の高台の介護福祉施設を目指して駆け出します。その約30秒後、グループホームは津波にのまれた。背後からは、建物を壊し呑み込む津波の轟音が迫ります。生徒たちは、たどり着いた介護福祉施設からさらに高台へ駆け出す。津波は介護福祉施設の約100メートル手前で止まりました。すべてが避難開始から10分足らずの出来事だったといえます。津波は3階建ての小学校を飲み込んでいました。市内各所では、すでに7割の児童が下校していた釜石小学校(児童184人)でも、生徒は全員無事でした。祖母と自宅にいた児童は、祖母を介助しながら避難、指定避難所の公園にいた児童は津波の勢いの強さをみてさらに高台に避難するなど、日頃の指導が生かされていたのです。釜石市内の小・中学校での防災教育は、年間5時間から10数時間行いました。けれど、

子供たちに教えたことが、彼らの頭の中だけで完結してしまうと、それは家庭や地域へと広まって行きません。「君たちは先生が教えてきたとおり、学校で地震に遭えば絶対に逃げてくれると思う。だけど、君たちが逃げた後に、お父さんやお母さんはどうするだろう?」、「みんなは今日、家に帰ったら、お父さんやお母さんに君たちが教えてあげるんだ。「いざという時は、僕は必ず逃げる。だからお父さんやお母さんも必ず逃げてほしい。」と。

岩手には「津波てんでんこ」という言い伝えがあります。これは、津波がきたら、てんでんばらばらに逃げなさい、そうしないと家族や地域が全滅してしまう、という教訓です。その意味するところは、古いも若きも、一人ひとりが自分の命に責任を持って、ということ。そしていま一つの意味は信頼です。家族同士がお互いに信じ合っていることが大事、ということです。子供は、お母さんは必ず後からちゃんと迎えに来てくれると、お母さんを信頼して逃げる。お母さんは、子供を迎えに行きたいが、我が子は絶対逃げてくれているという信頼のもと、勇気を持って逃げる。これは家族がお互いに信頼し合っていなければならないことです。ですから「津波てんでんこ」というのは、自分の命に責任を持つということだけではなく、それを家族が信じ合っている、信頼しあっている、そんな家庭を日頃から築きなさい、という教訓なのではないでしょうか。これは子供を通じて行った親や地域への防災教育の取り組みや「津波てんでんこ」の話がうまく伝わった結果ではないかと感じています。

東日本大震災での被災を免れた例は多くあります。2018年は地震、台風、大雨、多くの災害が日本列島を襲いました。さらに南海地震による津波の恐れが報道されています。言えるのは、人工物による命の保管は限界が有り、そんな物に頼っては行けない。という事ではないでしょうか。子供の防災教育が大前提でいかに命を自分で守るかを教えるのが大事です。ある自治体では小学生のスマホ所持を認める決定がなされました。災害時、スマホが使い物にならなかったのは周知の事実です。ナンセンスですね、スマホに安全を求めるのですか。家庭で、学校で、災害時にどのように行動すべきか、離れ離れの家族が自ら命を守り、再会するか決めておくべきです。皆さん、津波てんでんこの教えをもう一度自身の家族の安全のために考えてください。自分の命を守れば、他人の命を守れるのです。周りの被災者を救助できます。

### 体験農場、総仕上げ「蕎麦打ち体験と試食」

今年もやってきました、蕎麦打ち体験と試食会です。今年で何回目ですかねえ? 10回にはなったでしょうか。毎年の恒例行事ですので、記事がマンネリしてきすね、今年は「ジーコの挑戦」と題して特集してみました。

#### ジーコの蕎麦打ち挑戦体験記



こんばんは、ジーコです。今年の蕎麦打ち体験は私がお送りいたします。よろしくお願ひいたします。先生は大関さん、ひやかしは、長岡さんです。どうなりますか不安です。



大関先生さすがにうまい

全くの初めての蕎麦打ちです。これが蕎麦粉ですか、まずは大関先生の一連の作業のお手本の観察をしました、なるほどそんな手順なのですね。では行きます。よろしく お願いしま〜す。



まず、ボールの粉にお湯と、少しの水を加えて、固めて行きます。最初のボールが小さかったので、大きなボールにチェンジ、こねます、力の限り、だめ、疲れたわ。こねるのは力技です。誰か手伝って～。助っ人登場でねり上がりました。うれしです。



さあ、伸ばし棒を使って広く伸ばすわよ。え、なに？いびつな形、しかもフチがビビ割れて、ああああ、真ん中から割れてしまった。大関先生、どうしようこんなじゃ蕎麦にならないよね。「私に任せなさい。」大関先生はボロボロの生地を起用に折りたたみ、フチを切ってくれました。「助かったわ、次は麺に切るのよね。」「あ、うどんみたいに太くしか切れない、こんなの蕎麦じゃない。」自分でもわかります。「切り方にもコツはあるんだよ。またまた大関先生の指導のもと、「だんだんうまくなって来たような

気がします。」周りのギャラリーから「お、上手になって来たじゃないか。」「先生のおかげです。」



後は、煮上げて、締めて、ザルに盛り付け出来上がり。「どうですか皆さん、私は

美味しいと思うけど。」「上出来だよ、美味しいよ。」「うん、美味しい。」「ジコの、蕎麦打ち初体験は、みんなの冷やかしか、笑いの中で大成功と言っていいのかもしれませんが、来年はもっと上手に打てるようにまた来て下さい。

副食のサラダと、天ぷらを合わせていただきました。天ざるのような蕎麦の食事でした。日本そばだけでお腹が一杯になる至福の時間をすごしました。美味しい、楽しい、大成功でした。

## 盛岡 YMCA 伊藤眞太郎主事長期派遣激励会開催



伊藤眞太郎さん

2月23日、盛岡 YMCA の伊藤眞太郎主事が熊本 YMCA へ長期出向するにあたり、盛岡 YMCA 職員、常議員会、もりおかワイズメンズクラブが集まり、激励会を開催して伊藤眞太郎君を送り出しました。

伊藤君は、大学生のボランティアリーダーから盛岡 YMCA と関わり18年が経過していて、現在は職員です。もりおかクラブが発足した当時は担当主事としてクラブ運営に携わってくれました。YMCA に就職したときと、2011年の震災の時の2度出向の話があったと聞きます。どちらの場合も盛岡 YMCA の事情で出向の話は流れてしまったとの事でした。今回は伊藤君の将来を

考え最後のチャンスだと、濱塚総主事が判断、3年の出向が決まったそうです。小学生の長女が「しかたない、行ってやるか」と言ってくれたのでお話を受けることを決断できたと言っていました。伊藤君は子供の教育という面でも成功していたのですね。

もりおかクラブからは、盛岡 YMCA、常議員会、もりおかクラブの三者連盟の激励状を送りました。激励状なんて聞いたこともありませんが、頑張ってきてほしいとの気持ちを込めてお送りいたしました。2000km も離れた熊本 YMCA ですが、九州地震の被害からの復興途中の熊本です。宮古ボランティアセンターに全国各地の YMCA から職員が出向して力を分けてくれました。今度は伊藤君が熊本で活躍する番です。盛岡 YMCA を代表して持っている力を存分に発揮してくれる事を期待しております。頑張ってください。

## ピンクシャッター特別企画「今を楽しむためには」

2月24日、盛岡 YMCA ユース委員会主催で、講師に岩手大学院教育学研究科准教授、佐々木全先生をお迎えして、盛岡スコール高校アリーナで開催されました。

休日の過ごし方には、静の時間の過ごし方。映画、読書、ゲーム。動の時間の過ごし方。スポーツ、キャンプなどあります。今日は、動の過ごし方としてタグラグビーを行いましょ。その中で戦略や、共同を考え、感じて仲間との絆を深めていければいいですね。



準備運動もたのしいぜい、そだね～。

さあ、始めましょう。入念な準備運動の後、ルールを説明するために練習試合を1時間行いました。その後8分マッチのリーグ戦の開始です。タグラグビーはタックルの代わりに腰に付けたタグを奪います。タグを奪われたらプレーを止めて(タックルによって転倒している)パスを出す。5回タグを奪われる前にトライを奪う(ゴールラインを突破する)ことが出来なけ

れば攻守交替になります。

動きの悪い子供は当然後方に位置しているのですが、ラグビーは前方にはパスを出せませんので、当然後方に待機している見方にパスが来ます。もう全身突破を目指すことしかありませんあまり、気持ちが入っていない子供もだんだん取り込まれているうちに一緒に喜びだしてきます。だってトライを奪えばうれしいのは誰でも同じ、スポーツで自分のプレーで得点できれば楽しくなるでしょう。そんな経験が無い子供が夢中になるのは当然です。とてもいい企画でした。

スローフォワードや、タッチラインを割るくらいの反則は全く取りません。いいじゃないですかそれくらい。楽しくやろうよ。



オリヤーいくつぞ、そうは行かない



大成功みんな仲間、楽しかった～

学校の中で、何か問題を抱えている子供たち、そんなの忘れて今を、この時間を楽しもう。気持ちが通じれば仲間は出来る。

## 冬はもう終わりですね、白鳥が北帰行開始！

高気圧におおわれ、風もなく温かい日が続いている盛岡です。最高気温も10℃に近づき、まるで3月半ばのよう、季節が半月進んでいるようです。3月と言えば、そうです白鳥の北帰行開始です。2000Km かなたのシベリアから越冬するために日本列島まで渡って来た白鳥、各地で思い思いに羽を休めていましたが、この暖かさで旅立ちを始めそうです。実は、そんな気がして24日朝、高松の池に行ってきました。そこには少しだけ残った氷の上で短い両足の白鳥が立っていました。しかし、羽を広げ今にも飛び立ちそうな雰囲気です。その時、水面に浮かんでいた群れが水面を走りだしました。大きく羽ばたき離陸(水)開始です。「お、飛ぶのか?」、海上自衛隊の水難救助艇ようです。水面を蹴っ



飛び立った白鳥たち

て加速するなんと笑い誘う姿に、思わず「行け、頑張れ!」4羽の群れが夕暮れの空に飛び立ちました。4羽ですから、飛行訓練でしょう、その日のために準備を始めています。毎年間違いないやって来てくれますが、ここ高松の池では毎日餌を与えています。ライバルのカモと餌の奪い合いが毎日続きます。しかし白鳥はたくましい、田んぼに行っても残っている落穂や、川沿いの枯草の実を



鶴と比べると超短足です。



風切り羽が美しい、はっきり写りました。

拾って食べます。あの大きな体に十分間に合うように食べられているか、毎回見るたびに疑問です。野生の白鳥は生きるために必死です。盛岡市民が各地で餌を与えていましたが、鳥インフルエンザへの警戒と、野鳥の生態系を守りましょう、という呼びかけで、餌やりは禁止です。中津川各地で見られた姿は、ここ数年、本の数羽たまに見かけるだけとなりました。その分、いつ行っても高松の池には白鳥の姿が見られます。憩いの公園です。

そんな白鳥と触れ合った後の25日、「あ、飛んできた。」玄関を出た瞬間あの声が聞こえてきました。車庫から飛び出し、空を見上げた瞬間、10羽程度の群れが3つ、一列と、カギの型、くの字型の編隊が北の空に向かって飛んで行きました。かなり早いです。アツという間に雲のかなたに消えていきました。「やっぱり今年の冬はもう終わりなのですね、無事にシベリアにたどり付く事を願います。またね、次の冬にまた合おう。

### 編集後記

久々に6ページのブリテンです。2月末は怒涛の5日間を過ごしました。21日は常議員会、22日は蕎麦打ち体験、23日は伊藤君の激励会、24日はピンクシャツデーのタグラグビーと高松の池の取材、25日は白鳥の北帰行観測とブリテンの編集。原稿が順調に集まり、ブリテンを仕上げられた事が嬉しいです。

通常2月はまだまだ冬ですので、家にこもり活動が少ない季節なのですが今年は、とても活動的でした。

カモシカの「モシカ」、ここしばらく姿を見せていません。代わりにキツツキの一種「アカゲラ」が栗の木にやって来て幹をつついていて姿を観察できました。ほかの鳥とは違い、幹を垂直に移動します。「なんだあれ?」写真を撮らなくちゃ。



アカゲラの「シャポー」

白鳥と違い小さいので写る心配でしたが、なんとか撮影に成功。ネットで調べると「アカゲラ」のようです。ネットの写真はかわいい赤い毛が頭部にあるのですが、私の写真のアカゲラは赤い帽子がありません。石巻の日野さんのお話で、メスなのでは?、または生息域で模様が少し違う群体もあるとの事。初めて近くで見た「アカゲラ」もかわいいものです。このアカゲラには「シャポー」と名付けました。

### 2月の写真館

